

はままつじょうはっくつつうしん

浜松城発掘通信

№8

浜松市文化財課 2019年7月22日

浜松城二の丸の発掘調査を開始しました。

浜松市文化財課では、浜松城二の丸（旧元城小学校内）の発掘調査を6月20日に開始しました。今回の調査は、二の丸に関わる痕跡とその残存状態を把握することを目的としています。

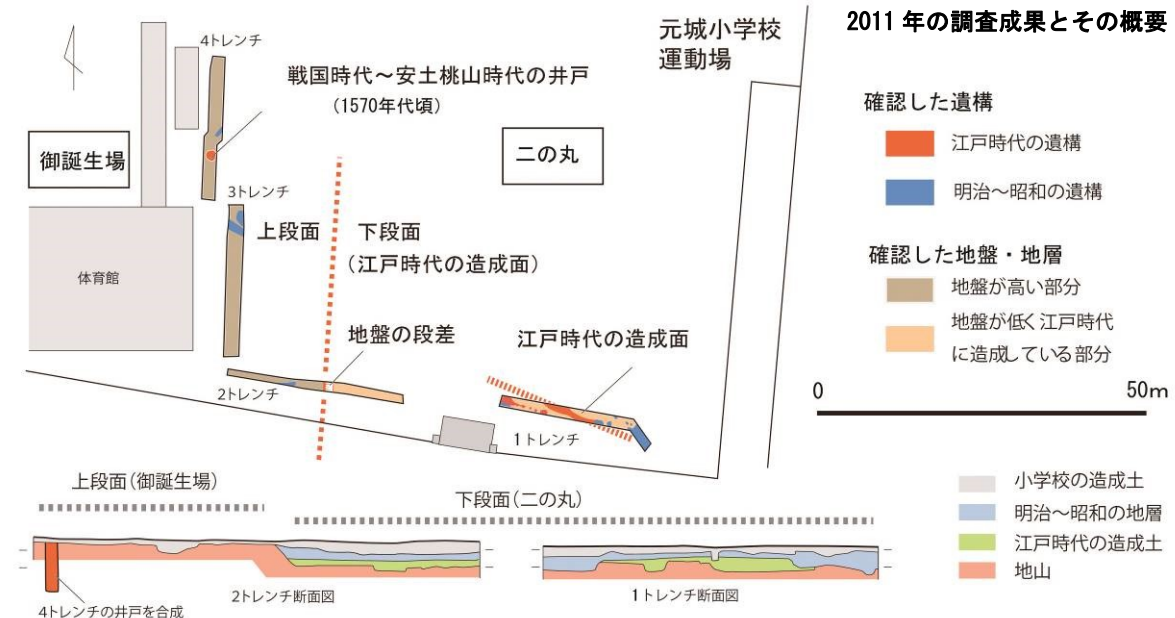


二の丸の調査状況 2019年6月28日の調査状況。

旧元城小跡地全域を対象に、調査区を設定し、浜松城に関わる痕跡の時期や残り具合等について調査を行います。江戸時代の浜松城を記録した絵図を参照すると、今回の調査地内には、二の丸御殿や門、石垣や堀などがあったことがうかがえます。

2011年に実施した二の丸の発掘調査成果を紹介します。

旧元城小学校の校内で2011年に実施した発掘調査において、井戸や二の丸内の敷地に段差があることを確認しました。この段差は絵図にみられる、下段面（二の丸）と上段面（御誕生場：2代将軍秀忠の誕生地の伝承地のひとつ）にあたと捉えられます。



絵図と二の丸の調査地（上）

二の丸と二の丸の西側にある御誕生場の間には段が表現されています。



御誕生場で発見された井戸（右）と井戸から出土した瓦・陶磁器（左下）

井戸は直径 1.6mほどの素掘りの井戸です。井戸の中から出土した陶磁器が生産された時期は 1560 年代から 1570 年代です。徳川家康が浜松城を居城とした時期や秀忠が生まれた時期（1579 年）と重なります。



浜松城の発掘調査は平日の午前8時30分から午後4時までの作業時間内において、敷地南西部の外側から作業状況を見学いただけます。作業内容によっては、安全確保のため見学いただけない場合があります。